

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容

- ◆ 今回の講義では、放課後児童クラブの根本的な目的や意味などを学びました。勉強だけではなく、遊びの面に注目していき、その生活の場を整えて充実した時間を与えるのが支援員の役割だと感じました。また、秋田県の放課後児童クラブの状況をグラフで見たり、県北・県央・県南で比べたりしました。これからの講義を踏まえて、放課後児童クラブの支援員としてクラブの質の向上に繋がられるように携わってほしいと思います。
- ◆ 登録児童数が増えて、放課後児童クラブは様々な場所で行われています。子どもが怪我なく親元へ帰れるようにすることが私たちの仕事だと思っていましたが、子どもの健全な育成と遊び及び生活の支援は様々な観点から考えていかなければならないと思いました。これからは、「ただ子どもの様子を見ているだけ」ではなく、その辺りを意識しながら支援員として取り組んでいきたいと思いました。
- ◆ 放課後児童健全育成事業は市町村が主体となっており、それぞれの地域にあった運営がされているとのことでした。以前より共働き世帯や核家族の増加などで、利用人数や施設の増加に繋がっていることも分かりました。この研修を受けることにより、全国各地でも同じような基準で、放課後児童支援員としての資格を取得できるのは、親子共に安心して放課後児童クラブで過ごせるようにするためのものであると理解しました。支援員の役割はとても重要であると感じました。
- ◆ 少子化なのに放課後児童クラブを利用する子どもは増えているということを知りました。それに伴い、受け入れ施設を増やしたり、支援する職員も必要になります。何より子どもの安全や安心を確保するためには、職員の質の向上も不可欠であることが理解できました。放課後児童支援員は国家資格に準ずる資格であることを常に意識し、役立てる一員になりたいと思いました。
- ◆ 市町村の条例に基づいた運営基準の内容は概ね理解しましたが、学年が混じり合った中で児童の自主性・社会性・基本的な生活習慣の確立を目指すというのはなかなか困難だと思います。また、学業的指導は目的とされていないとのことですが、保護者の中には学童は宿題の場という考えが強い方もいます。子どもたちにとって主体的な生活の場であることや社会的な生活習慣の確立を目指すということを肝に銘じながら支援していきたいです。